

中西 孝尚 氏 学位審査結果の要旨

主査：木梨達雄

副査：藺田精昭 上野博夫

樹状細胞は自然免疫および獲得免疫の両方にかかわる重要な免疫細胞であるが、様々な生理活性物質を介して炎症反応にかかわる血小板とのクロストークについては不明な点が多い。申請者は活性化血小板がサイトカイン TSLP 刺激樹状細胞と接着凝集し、樹状細胞の CD86 発現亢進や CCL17 の産生を誘導することを見出し、この過程に活性化血小板に発現する RANKL が関与していることを *in vitro* 実験により明らかにした。アトピー性皮膚炎などのアレルギー病態において CCL17 による Th2 細胞集積の新たなメカニズムが示唆され、学位に値する研究と考えられる。